

第3期国分寺市公民館運営審議会 令和元年度第2回定例会 要点記録

日 時 令和元年9月12日(木) 午後2時～午後3時30分

場 所 恋ヶ窪公民館会議室

出席者

■委 員 佐藤委員長・田中副委員長・浅見委員・近藤委員・畑中委員・新委員・戸澤委員・岡本委員・今野委員・大内委員(欠席2名)

■職 員 前田公民館課長兼本多公民館長・増本恋ヶ窪公民館長・久保光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・野中本多公民館事業係長

■傍聴者 なし

1. 連絡事項

(1) 資料確認

(2) 第1回定例会要点記録確認

事務局：机上配布してありますので確認ください。

委員長：修正等があれば事務局へ。

2. 報告事項

(1) 令和元年国分寺市教育委員会第7回・第8回定例会

課 長：資料1に基づき説明

副委員長：通学路の防犯カメラ、現在の台数は

課 長：小学校区に各5台、50台と思います。

委 員：今回の設置は小学校区に各1台と、中学校区も各5台設置するものと聞いている。

副委員長：今回は35台増設ということか。

課 長：そのとおり。

委員長：主要施策評価、社会教育に関する内容に対する意見はなかったのか。

課 長：点数評価のつけ方について意見をいただいている。公民館に対しては、しっかり取り組みをしているとの評価をいただいた。

(2) 国分寺市議会、厚生文教委員会

課 長：一般質問で、恋ヶ窪公民館図書館のエアコンの不具合について、状況確認があった。公民館事務室エアコンが7月初頭から停止しており、小学校給食室のスポットクーラー、小中学校体育館の冷風機を借りて対応した。8月末に復旧した。

そのほかに、くぬぎ教室について、福祉との連携が取れないかとのご意見や、恋ヶ窪公民館のエレベーターについて早期の設置を求めるご意

見もいただいた。

委員長：恋ヶ窪公民館は全国的には著名で環境はいいようだが、施設的には不備があるということか。請願も出ているようなのでぜひ対応してもらいたい。

3. 協議事項

(1) 恋ヶ窪公民館の現状について

委員長：各館を回りながら、その現状と課題を認識していくという、研修的な意味合いもある。今日は恋ヶ窪について報告をお願いする。

館長：資料2に基づき、恋ヶ窪公民館について説明。

委員長：ハード面では狭いが、地の利などを使い国際教室など工夫した事業を行っているようだ。今日は皆で認識を深めていくことを目的とし、特に提案とかではない自由な質疑、討論をしていきたい。

委員：日吉町在住のため恋ヶ窪はよく来る。おまつりや中庭を使った取り組みなどいろいろ行っていることは感じている。しかし館長の報告にもあったが夜間の利用が少ないこと、そこはもったいないと感じている。また老朽化が進み、廊下のタイルがはがれているところも少なからず散見できる。さらに話題のエレベーターについては、よく杖をついた高齢者の方から「あるといいね」という意見はよく聞く。確かに小学校の敷地で狭いので、どこに設置できるのか悩みどころだとおもう。しかしながら大規模改修にあたる令和4年、5年まで待つというのは今の利用者を軽視しているのではないか。予算のこともあるだろうが、ぜひ前倒しを検討してほしい。

いろいろないいことをやっているのでPRなどをもっと力を入れて頑張してほしい。

委員長：夜の利用者が少ないということをどのようにとらえているのか。

館長：交通のアクセスがあまりよくないこと。また駐車場がないことなどが影響していると考えている。

昨日の利用者懇談会でエレベーターの話が出ている。それまでの代替案の検討も話が出ていた。

委員：公運審委員になる前に恋ヶ窪の運営サポート委員をやっていた。そのころにも利用の問題を話し合っていた。ないものを言っても仕方ない、ということで施設の特徴を生かした事業を検討した。その結果水遊びや中庭でのコンサートなどが行われた。子どもたちがいすやソファで遊ぶことができるからみんなで来るように、2階に上がれば何かお得なことがあれば、エレベーターがなくても来てもらえるという話をしたのを覚えている。未利用者が上がってくるようなお徳とは何か、デメリットをメリットに変える方法をアンケートしてみよう、特に大人の堅いアイ

ディアではなく、子どもの柔軟なアイデアをぜひ聞いてみたいなどと話していた。

委員長：中庭には何人ぐらい入るのか。

事務局：(前任者として) 中庭コンサートでは100人位、公民館祭で9小ジュニアバンドの演奏の時は保護者が見に来るので200人以上中庭に入る。水遊びでも親子合わせて50~60人が来ることもある。また先ほどの夜間の利用の話だが、住宅地の割には周囲が暗い、学校や清掃センターなど、夜間に暗い大型施設があることからかなり周辺の明かりが少ない。したがって夜の講座を行うと女性の方を中心に「昼間できないのか」というご意見をよくいただくので、駐車場の問題を含め、なかなか夜間の講座が企画しづらいということもある。

委員長：暗いというのは問題。都市計画の問題でもあると思うが、街灯の間隔を詰めてもらうことや、さいたま市のように館の周りでイルミネーションを協力してもらえそうな家があればいいのだが。公民館をイルミネーションつけてもいい。夜の来館が素敵になる。図書館は何時まで開館しているのか。

館長：午後5時まで。

事務局：図書館の開館時間につきましては、本多図書館は平日午後8時、光公民館は平日午後7時、その他につきましては午後5時までとなります。

委員長：人員体制や利用者の問題もあるが、夜の賑わいの創出をどうやって行くか考えることが必要。

委員：せっかく公共施設予約システムを導入したのだから、会場を取りやすくなった若年層へのメリットを生かす必要がある。高齢者や主婦は夜間には来ないかもしれないが、代わりに若年層をターゲットにした講座をやれば人が来るのではないか。せっかくのメリットを生かした方がいい。

委員長：先ほど紹介にあった「こいがくぼハートカフェ」は昼間にやっているのか。

館長：昼間に実施している。昨年度までは「こいがくぼを語るサロン」として夜間実施をしていたが、普段利用している方が一品持ち寄りの雑談会になってしまっており、新規開拓のビジョンが見えなかったので、運営サポート委員や公民館祭の関係者も入ってもらい、刷新をした。

委員：公民館はイベントの取り組みをPRするのが下手で、館内にチラシを配架しても、公民館にすでに来ている人しか見ない。もっと若い人などに届くPR方法を検討してほしい。

委員長：高校生が夜間にコミュニティーセンターで勉強しているのもよく見る。そういうニーズがあるとは思いますが、様々なアイデアを集めてできることを対応してほしい。

委員：せめて車いすの方向けにインターフォンをつけてはどうか。

館 長：呼び鈴はついている。車いすの方やベビーカーなどの方が階段下で鳴らしていただければ、荷物を運ぶなど、職員が階段を上るお手伝いをさせていただいている。

委員長：3～4年後には修繕させるようなので、皆さんで話し合って使いやすい施設にしてほしい。

(3) 前期答申の感想について

委員長：前期答申の感想を聞かせていただき、今期の議論内容を詰めていきたいと考えている。全員に発言してもらいたいと思うがいかがか。

副委員長：我々は答申をした立場なのだからまずは館長たちがどう受け止めたのかを伺いたい。

課 長：職員の中で読み合わせを行い、「サードエイジ」「子ども」と分科会に分かれ、どういったことができるのか、答申を受けすでに取り組んでいる事業などの情報共有などさらに議論を深める研修を行った。

委員長：答申を受けて取り組み始めている事業など紹介してほしい。

課 長：各館から説明させる。

事務局：本多公民館ではサードエイジについて、「高齢者対象事業」を11月から実施予定。ライフプランや身の回りの整理など終活問題を考えている。子ども向けの事業も充実したいといけないと、職員では話し合っている。

館 長：光公民館では11月から平日夜間に「くにちかデザインスクール」というまちづくり講座を実施します。こちらはサードエイジ限定ではない、幅の広い事業にしようと考えている。また昨年から「終活講座」を実施し、サードエイジ世代向けに、自分のことよりも自分の親のことを、お墓・葬儀、お金、終の棲家、身辺整理などの課題解決に向け学習している。子ども対象については、児童館併設ですが、2階まで上がってくることは少ない。7月に国分寺高校生の協力でレゴ講座を行った。昨今小学生が忙しいことと、未就学児の母親から一緒に参加できるような事業を求める声を聴いているので、検討している。

館 長：恋ヶ窪公民館では答申を受け、利用者懇談会で館選出の委員から答申の説明があり、参加者から概要版があった方がより答申が身近になるのではないかという意見があった。事業については未利用者向けに「公民館デビュー講座」を検討している。スマホなどの操作説明会なども含めた5回講座を予定している。サードエイジ世代は公民館に頼らなくても仲間はあるが、地域で同世代同士語れるような場所づくりを考えている。恋ヶ窪では子ども向け事業は以前から取り組んでおり、ゴスペルの体験なども企画している。

館 長：高齢者対象では本多や光のような実務向けではなくメンタルをテーマ

にした内容で実施した。配偶者を亡くされた方が、社会的活動をやめてしまうことが往々にある。特に男性は妻が亡くなってから1年で亡くなることが多いと聞く。その講座の参加者から職員と参加者が求めているものに乖離があったと意見をいただいた。死をネガティブではなく、なるべく前向きに受け止められるような内容を求められた。今年度少し長めに実施することを考えている。子どもの関係は、今年度パソコン教室が実施できなかったため、中学生に協力していただき小学生向きに拓本の講座を実施した。しかしもとまち公民館の再近隣である第一小学校の児童の大半は本多公民館の近くにある第二中学校に行くが、もとまち公民館は四中と連携しているため、生活圏が違うというギャップなどの課題がある。

館長：サードエイジ対象事業は昨年度から準備会を重ね、今年度「人生百年講座」を実施します。講師については例えばうどん作りなど地域の方にもお願いして行います。子ども向けでもやはり活動グループ、例えば陶芸などの講座なども実施していく。

委員長：工夫しながらバラエティの富んだ取り組みをしているようだ。今まで参加者が集まらなると避けてきた長期講座にも取り組んでいるようで興味深い。新しい参加者が定着してほしい。実施報告を期待したい。

委員：PTA連合会から報告をさせてほしい。答申を受けP連の組織である「きょうどう学習委員会」と本多公民館の共催で教育講座を実施することになった。委員からは自由に学習しろと言われても、どう進めればいいのか非常に難しい委員会なのだが、今回は最初から公民館職員に入っただき、道筋を作っていたので今後の展開が楽しみという意見が出ている。いい形で進んでいるようなので、また後日報告したい。

委員長：P連選出の前委員が大変熱心で頑張っていた。いい形につながって何よりだ。

委員長：次回も継続して前期答申をテーマとした議論を進めていきたい。

事務局：11月の日程の検討をしてほしい。

委員長：11月20日の午後2時からお願いします。では以上で第2回運営審議会を終了する。